

事例 74 ガイドウェイバスの導入（ゆとりーとライン：名古屋市）

- ・ バス車両に格納式の案内装置のみを取り付けたシンプルな走行メカニズムであるガイドウェイバスシステムを導入。道路混雑の激しい区間は専用的高架軌道を走行し、平面一般道路との双方を乗り換えなしで走行することが可能なデュアルモードにより、所要時間短縮やシームレスなサービスを実現。

背景

- ・ 都心部へ向かう自動車交通混雑の緩和と、地区開発に伴う新たな交通需要に対応するための交通手段が求められていた。
- ・ 道路ストックを活用し、平面区間の開発状況に応じて専用軌道の段階的な整備が可能なガイドウェイバスシステムの導入を決定。

対応

- ・ 専用軌道区間を名古屋市が出資する名古屋ガイドウェイバス（株）が運営し、運転実務をバス事業者へ委託。平面区間はバス事業者が車両を借り受ける形で運営。2001年3月に開業。
- ・ 軌道区間と一般道路区間を乗り継ぐ場合には、運賃の併算割引を実施。

結果

- ・ 高架区間では、路面バスが朝のラッシュ時に約 32 分要していたところを約 13 分で走行。定時性・高速性が確保され、都心部方面へのアクセスの利便性が格段に向上した。
- ・ 2006 年度の 1 日当たり平均利用者数は 9,200 人（高架軌道区間）。

課題

- ・ 利用者数は年々増加傾向にあるものの、さらなる乗客誘致を図っていく必要がある。

（名古屋市住宅都市局都市計画部特定交通経営管理室）

